

発行者兼編集者  
 鵜 戸 神 宮 所  
 社 務 所  
 印刷所  
 西 日 本 印 刷

昭和十九年撮影

当神宮は日南海岸国定公園のほぼ中央に位置し、自然の大洞窟の中に鎮座しまして古くより安産・育児・漁業航海の守護神として崇められ又、剣法は念流陰流の始祖が岩屋で靈感を得たと伝承される、剣法発祥の地でもございます。

境内には国指定の天然記念物である「鵜戸へご自生北限地帯」を始め、県指定の鵜戸千畳奇岩、市指定の鵜戸山別当墓地、八丁坂、燈籠、御本殿等数々の文化財が集中する景勝の地であります。

創祀は第十代崇神天皇の御代と伝へられ、御本殿は度々修復再建され、現今の社殿は正徳元年に再興し、約二百八十年前の御社殿であります。

此の度の調査事実により、床下の束の高さ等周囲の景観を気にしながら自然と調和して建てられており、建築学的にもすばらしいと、彫刻など数多くの写真も挿入して報告されている。

此の様な貴重価値ある文化財を役職員一同協力して護り、後世に伝え、日本民族の魂の故郷である神宮の発展と神徳の昂揚に努めたく所存でありますので、一層の御力添賜ります様御願ひ申し上げます。尚、皆様方の御健勝と御多幸を祈念し御挨拶と致します。



ごあいさつ

宮司 佐師 朝規

暑中御見舞  
 申し上げます。

暑さ殊に酷しき折から皆様方には、益々御健勝の御事と御慶び申し上げます。

当宮におきましては、鹿児島大学工学部教授土田充義先生に依頼して居りました、御本殿調査研究の御報告書を本年三月に上梓する事が出来ました。

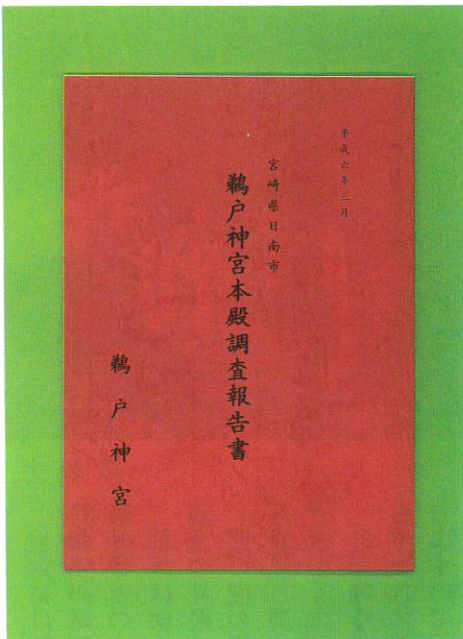
### 本殿調査

## 報告書完成

当神宮では皇太子殿下御成婚の奉祝記念の一環として、鹿児島大学工学部教授土田充義先生に本殿調査を依頼した。

昨年七月より土田教授他大学院生六名が近くに宿をとり、早朝より調査研究が行われた。期間中は南九州各地で集中豪雨となり、調査に支障が出るのではないかと心配されたが、当神宮は岩屋の中にお鎮りになられている為、スムーズに調査が進行した。そして今年三月土田教授、他大学院生の御努力により調査報告書が完成した。

尚、この調査に携わった土田教授を始め、県総務部県史編纂室永井哲雄室長、日南市教育委員会の方々には紙面をかり改めて心より感謝申し上げます、御報告と致します。



地図 鴨山山全体 鴨山神宮所蔵



地図 鴨山山部分 鴨山神宮所蔵

### 就任の挨拶

権宮司 日高輝和



平素鴨山神宮の事につきまして、何かと格別な御高配を賜り深謝申し上げます。不肖ながら去る平成六年六月一日因らざるも神社本庁統理様より権宮司を拝命いたしました。

元より浅学非才の身ではありませんが、ここに覚悟を新たに、微力ながら全精魂を神明に捧げ神宮の発展の為に務めてゆきたいと存じますのでよろしく御願い申し上げます。

鴨山神宮は地元をはじめ全国広汎な崇敬者に支えられておるところにより御社

頭の弥栄と神明奉仕を第一と心得、皆様方のあたたかい御支援を戴きながら地域の繁栄に些かでも貢献できればと存じて居ります。又、鴨山神宮運営の重要な問題であります、御社殿の保存に心掛けながら、目標を持ち一つ一つ根気よく対応してゆくことが私くしに課せられた責務と痛感して居ります。ここに皆様の深い御理解と御協力をお願い申し上げます。御挨拶と致します。



## 例祭齋行と奉祝行事

本年度の例祭は生憎の雨にたたられたが、猷幣使黒岩龍彦氏(県神社庁長)参向の下、午前十一時より厳肅且つ盛大裡に斎行され、責任役員、氏子・崇敬者総代を始め、四神宮(英彦山、霧島、鹿尾島、宮崎)宮司、県内外神社、官公衛関係、日南市・北郷町・南郷町各地区区長、全国各地の崇敬

者の参列を賜った。

祭典には、当宮の職員による舞楽、陵王、が奉納され、厳かな中にも華やかさもそえられた。

奉祝行事としては儀式殿前広場にて第二十二回鴨山神宮奉納四半的弓道大会が二月一日当日に開催される予定であったが、雨天により延期となり、二月十三日

に開催され昨年を上回る六十九チーム・三百二十一名が参加し和やかな中にも白熱した競技が行われた。又、二月六日には、第四十一回剣法発祥鴨山山頭彰剣道大会が、儀式殿前広場にて開催され、県内各地より小学生から一般まで、一五八チーム・二二〇〇名の参加の下、終日熱戦が繰り広げられ、選手達の掛け声や応援者の歓声が境内に響きわたっていた。

尚、四半的・剣道大会の成績は次の通りである。(敬称略)

### 〔四半的大会〕

〔団体〕

- ▽一般①後河内②中郷・光
- ③小林A
- 〔個人〕
- ▽一般男子①石川安美(大宮)②長谷川清弥(住吉)
- ③田中芳夫(串間)④広原幹夫(南郷)⑤江藤重利(串間)⑥藤本英利(南郷)
- ▽同女子①財津美慧子(大宮)②野々垣郁子(佐土原)
- ③藤本喜佐子(大宮)④馬場セツミ⑤大山ツキ子⑥中山ナミ子

### 〔剣道大会〕

〔男子団体〕

- ▽一般①宮崎機動隊(宮崎)
- ②宮崎刑務所(同)③生目剣道(生目)児湯郡(川南)
- ▽高校①宮崎北(宮崎)②宮崎日大(同)③延岡学園A(延岡)日南高校(日南)
- ▽中学①延岡修道館(延岡)
- ②稲門館(同)③大宮中学校(宮崎)神武館(同)
- ▽少年①延岡修道館(延岡)
- ②神武館(宮崎)③振徳館(日南)剣心館(串間)
- 〔女子個人〕
- ▽一般・高校①橋口奈々(延岡学園)②甲斐由桂里(延岡学園)③柳直美(宮崎)



- 女子高、椎葉祥(宮崎北高)
- ▽中学①甲斐寿子(玄武館)
- ②原田摩須美(姫城中)③園田知江美(小林輝星)、興
- 栢あゆみ(稲門館)
- ▽小六①椎葉瞳(玄武館)
- ②田上加奈(至誠館)③高牟礼笑子(白虎)、河野志穂(剣心館)
- ▽小五①中島千尋(上長飯剣友)②谷口千春(剣心館)
- ③長友志帆(成徳館)、井本恵美(貫心館)
- ▽小四①中武真里恵(玄武館)②河野美久(大東武道)
- ③長友里美(玄武館)、内門美由紀(至誠館)



### 祈年祭齋行

二月十七日、晴天のなか午前十一時より責任役員を始め、氏子崇敬者総代、官公庁、各地区区長、敬神婦人会等の多数の参列のもと、宮司以下祭員によって厳粛に齋行された。又、巫子による浦安の舞も奉納された。この祭りは、年頭にあたつて五穀豊穰と国家の安泰を祈願する祭りで、農耕を主としてきた日本人にとって古代より行われてきた重要な祭りである。



### 別当宮司先賢

#### 慰霊祭

去る五月二十一日、爽やかな五月晴れの中、別当宮司先賢慰霊祭が、新緑の杉並木が広がる鶴戸山別当墓地に於いて、歴代別当宮司遺族、責任役員、氏子総代をはじめ多数の参列者の中しめやかに齋行された。又、同祭は、当宮特殊神事の一つとされ、古例により現在も神仏合同慰霊祭として執り行われている。宮司祝詞奏上の後、潮満寺住職伊勢木俊真氏外僧侶二名の経が奏上された後、御詠歌などの法要が行なわれた。



## 第八回シャンシャン馬道中唄全国大会 開催とシャンシャン馬道中再現

全国的に愛唱されているシャンシャン馬道中唄の全国大会が、去る三月二十六日、二十七日の両日にわたって開催された。二十六日、日南市文化センターで予選が行なわれ県内外より合わせて五四一名が参加、少年、青年、壮年、実年、高年の五部門に分れ競いあい、二十七日は、会場を当宮儀仗殿に移し、決勝戦が行なわれた。

出場者は三味線、尺八、太鼓などのリズムカルな音に合わせて熱唱し、日頃鍛えた自慢の喉を披露した。会場は、民謡愛好家や一般参拝者で埋まり、唄の終わるたびに大きな拍手が送られていた。各部門の入賞者は次の通り

(敬称略)

- ▽少年の部①児玉恵子(宮崎市)②浜地涼子(日南市)③田上小百合(同)
- ▽青年の部①牟田寿子(佐土原町)②石津美千加(高

千穂町)③金丸香代(宮崎市)

- ▽壮年の部①日高美智子(日南市)②後藤久美(熊本県)③市来美年子(鹿児島県)
- ▽実年の部①宮島喜代美(北九州市)②高野照子(宮崎市)③宮口保子(日南市)
- ▽高年の部①安芸久子(西都市)②指宿スズ子(鹿児島県)③宝田すみ子(熊本県)

〔特別賞〕

- ▽少年の部 福吉麻記(鹿児島市)
- ▽青年の部 高山 繁(西郷村)
- ▽実年の部 父母裕紀子(熊本県)
- ▽高年の部 石川 實(神戸市)

又、同大会に合わせて「シャンシャン馬道中を再現する会」主催の鶴戸さん詣りも行われ、県内外多数の応募者の中から、栗本佳昭、明子さん(奈良県)、堀内敏



則・ゆりさん(岡山県)、父母英明、のり子さん(熊本県)の三組新婚さんが選ばれ、花嫁が乗った馬の手綱を花婿が引いて境内を一周した後、本殿にて正式参拝を行った。

又、熱気であふれる「シャンシャン馬道中全国大会」の会場にも披露され、しばし、和やかな雰囲気にも包まれていた。

## 観光地としての鶴戸神宮

日南警察署鶴戸駐在所勤務  
巡查長 野邊 裕 視



鶴戸神宮は、日南海岸国定公園の中央に位置しており、古くから安産・育児・漁業・航海の守護神として崇められています。

また、鶴戸神宮は、日本でも最大といわれる岩窟の中に鎮座し、神宮を含め鶴戸崎周辺には、国指定の「鶴戸ヘゴ自生北限地帯」を初め、県指定・市指定の文化財が集中する景勝地であります。

鶴戸神宮に限らず全国の有名な神社仏閣は参拝の対象でありますが、反面、観光地としての一面を持っており、旅行者には、どこどこには何という名所があり有名であるから行ってみたいということ訪れま

す。日南海岸という景勝地とそこにある日本でもめずらしい大きな岩窟の中にある神社ということ訪れる観光客も多いと思います。「シャンシャン馬道中」からでもわかるように鶴戸神宮は昔から新婚旅行のメッカでありました。昭和四〇年代は、新婚旅行の若いカップルで日南海岸は全国的に有名な観光地として脚光を浴びておりました。

その当時、国道二二〇号線の整備は今とは違い十分とは言えず、日南海岸で工事をしていない日はないとされる程でした。しかし長年の関係団体の努力により、現在は、すばらしい景勝地となり「南国宮崎」のシンボルとして全国的に有数の観光地としての地位を確立しております。

新婚カップルで賑わっていた当時、鶴戸神宮の参道には多くの土産店が並び活

気に満ちておりました。観光地も時代の流れにより、その様子も変化し、若者の海外旅行が主流となり昔の活気がなくなると同じように参道の土産店も高齢化、後継者不足のため昔のような賑わいもなくなってしまうました。

現在の観光は多用化しており、大規模な人工的で全てが完備されたレジャー施設が各所にでき、一日その施設の中で過ごすというものが多くなっています。

しかし、昔ながらの自然と一体となった日本的な観光地というものは残されていかなければならないと思います。神社・仏閣・城下町といった先人達が延々と築き上げた日本の伝統・文化というものは現在に生きる私達が守り、未来へと引き継いでいかなければなりません。そのためには、今を生きる私達が何をしなければならぬかを考えなければなりません。この鶴戸神宮及びその周辺でも同じこととです。

ここに住民の方がよく知っていることとします。参道の土産店についてもそれはいえることです。鶴戸崎周辺には多くの文化財があります。しかし、その一部しか知られておらず、その整備も不十分であります。これらの整備などは、一人でやることができるのではなく、行政地区住民・関係団体が協力し、どのようにすれば観光地として発展に寄与できるか考えなければなりません。

神社・仏閣など有名な観光地はいたる処にあり、その規模が大きい小さいかだけで同じようなものです。だからこそ観光客が、「良い所だからもう一度行きたい。人に紹介したい。」と思わせる場所になければなりません。

日南海岸と鶴戸神宮は、先人達の努力で全国的に有名な観光地として確立されております。さらに、これを発展させるため、ここに住む私達には一見ありふれたように見えるものでも見直し、その価値をみつけることができる広い視野を持

つことが必要です。観光地として発展させ確立させた先人達の努力を見直し、その努力の中にこれからの私達に必要な努力を見つけたことが大切ではないでしょうか。その努力とは、皆が協力することではないでしょうか。

「総論賛成・各論反対」では、真の発展を望むことはできません。「誰かがやってくれる」「時代の流れだ」と割り切るのでは何もできません。

鶴戸神宮は、自然と調和し、自然の中にとけ込んでいます。岩窟というまれな条件の中でその美しさを保ちながら自然の中に生きています。

自然と調和することは、互いが協力してこそ成立するものです。私達がこれからやらなければならないことは、互いに協力し、私達が住むこの郷土の「山」「海」といった自然をそのまま放置するのではなく、目立たなくとも、少しづつでも確実な整備を行い、調和のとれた鶴戸地区を創ることだと思えます。

# 研修旅行報告

権祢宜 瀧田賢二

六月三日、午前七時、第二班研修旅行者のチャーターバスが鶴戸を出発した。途中各人指定場所にて便乗し、鹿児島空港へ向った。今回は本国を離れ隣国台湾への研修旅行で有った為、皆心做し不安な様様であった。

離陸して約二時間、台北市に到着、空港には現地の添乗員が迎えに来てくれ、なれた日本語で挨拶された。

一行はチャーターバスに乗り込み、現地添乗員の説明に耳をかたむけながら、最初の観光地「龍山寺」へ向った。到着後、色彩鮮やかな正門、又、本堂両側に立つ石柱彫刻の精密さに目を奪われた。

線香の煙が立ちこめる境内は、熱心な参詣者で賑わっており、木片を投げては合唱を行っていた。

現地添乗員の説明によると、これは日本で言うおみくじで、百本の棒が入った箱の中から一本を引き抜き、



その先に書かれた数字を覚えておき、次に、この番号のおみくじを引いても良いかどうか、神に伺いを立てなければならぬ。それには神杯(シンペイ)という半月形の木片を二枚使い、願を掛けながらこの神杯を放る。

木片の表面に丸みの有る方が表、平らな面が裏であり、落ちた神杯が二枚共表だと神の怒りを示し、二枚とも裏なら神は笑を示す。しかし、どちらも願いが叶うわけではなく、表、裏が一枚ずつ出る場合に初めて、おみくじを引く事が許されると言う。

像は直立不動の儀仗兵に守られており、運よく交替の儀式を見学する事が出来た。初日の行程を無事に終え、ホテルに到着した。

鳥来公園の入口より上流の白糸の滝まで、約二・五キロの道程を赤いトロッコで登った。トロッコは快適な乗り心地とは言えなかったが、現在迄、一度も脱線した事が無いと言う。泰雅文化村では高山族の華麗な伝統舞踊が披露された。炎天下の中、一行は、「国民革命忠烈祠」へ移動した。ここは、数々の戦争によって命を落した将兵三十三万の霊が祀られていて、中国宮殿様式の大殿が立ち、正門と大殿前に衛兵が不動で看守しており、一時間ごとに儀仗兵交代の儀式が行なわれ、機械的な動作で観光客に喝采を受ける程であった。

型は違うものの何処か似ている様な気がした。龍山寺を参詣の後、「中正紀念堂」へ移動した。一九七五年に他界した蒋介石總統を偲んで建立された物で、正面アーチを潜り紀念堂へと進むにつれ、その巨大な建造物に圧倒された。登りきると、高さ六・三メートルの蒋介石の巨大な座像に迎えられる。

台湾東部一帯は大理石を初め、メノウ、ヒスイ等、豊富な地下資源を産出する事で知られている。中でも大理石は埋蔵量は老汗億トンにも昇ると言われ、山々から切り出された大理石などの原石は加工場へ運ばれ、切断、研磨、更に細工が施される。加工された製品は外国へ輸出されるそうであるが八割は日本へ送られると言うことである。

台湾観光のメインとも言われている処が見学した、「故宮博物院」である。フランスのルーブルやアメリカのメトロポリタンなどと共に世界的にも指折りの博物館に数えられ、所蔵する文物の数は、およそ七十万点にも及ぶ。しかも、それらはすべて中国の歴代皇帝が収集した

# 戸

# 鵜



選りすぐりの逸品ばかりで、古ければなんでも並べているといったレベルの博物館とは所蔵品の内容が違い、すべてが国宝級の品々である。古いものは、今から三千年以上前のもので、すべて中国で生まれた物ばかりである。

中でも個人的に感動したのが、象牙の彫刻で有る。象牙の球の中に、ひとまわりずつ小さくなった球が、なんと十七個も入っていたので有る、一本の象牙からつくられたことは間違いのないのだが、彫刻方法は謎だと言ふ。

いよいよ台湾最後の研修と成り、一同は「孔子廟」を見学した。大成殿に孔子、顔子、曾子、子思子、孟子が祀られ、更に大成殿の左右に立つ東廡、西廡には孔子の七十二人の弟子及び中国歴代の賢人百五十人が、後方の聖祖殿には孔子の祖先五代の霊が祭られている。大成殿にて御霊に拝礼し、慰霊と帰国の無事を祈念し、後に廟内を拝観した。その後は皆疲れ気味の表情で空港へと急いだ。地元添乗員が空港で見送る中、我々は本国へ飛び立った。鹿児島空港到着、皆ほっとしていたが、疲れは隠せなかった。チャーターバスで家路を急ぎながら、途中車内にて第二班研修旅行者の無事と添乗員に感謝の意が報告されバスは各所で停車しそれぞれ帰宅した。初めての外国研修旅行が無事に終え、国内旅行とは違い、気が抜けなかった。次回の旅先を想像しつつ研修旅行の報告と致したい。

## 新職員紹介

巫子 薬師神 ゆか



全国的な観光地として有名な鶴戸神宮に私が奉仕し早くも三ヶ月が過ぎようとしています。

奉仕し始めた頃は、何かから覚えれば良いのか分からず戸惑うばかりでした。先輩方の指導を受けながら、日を追うごとにいろいろな事を覚えましたが、まだまだ分からない事がたくさんあるので、先輩方を見習って、早く一人前の巫女になりたいです。

楽の練習も笛の場合は息を長く続けさせ息を漏らさない事、太鼓の場合は、強弱をはっきりつける事を目標にして頑張りたいと思っています。鶴戸神宮に参拝に来られ

た方によく、「ここは素晴らしい環境に恵まれましたが、晴天時の海の眺めは本当に素晴らしいと思います。」

このような素晴らしい環境に恵まれた鶴戸神宮に奉仕できることを改めてうれしく思います。

当神宮には、多くの参拝者の方々がおみえになります。その方々に、「鶴戸神宮に来てよかった。」と思っ

て頂けるように、思いやりのある心で接していけるよう努力していきたいと思っています。

まだまだ未熟者ですので、宮司さん始め、諸先輩方にはたくさん迷惑をかけると思いますが、自分なりに一杯努力し、頑張ろうと思っていますので、御指導よろしくお願ひ致します。

巫子 阿部 敦子



私が鶴戸神宮に奉職してもう3ヶ月が過ぎようとしています。思えば3ヶ月前ここに奉職した頃は何も分からずに戸惑ってばかりいました。当時は覚える事や勉強する事がたくさんあり、自分はやっていけないのかなと不安な時もありましたが、先輩方がとても優しくして下さいましたので心の支えになりました。今でもまだまだやるべき事があります。楽や笛の練習では、特に笛が大変でした。音が出なかつたり息が続かなかつたりと、とても苦労しました。今では何とか音は出るようになってきましたが、全然きれいな音色ではないのでこれからも、もっともっと練習が必要で。学生の頃とは違って毎日、何百人という人と接する機会があります。参拝者の方が、「運玉が



入った。」などと喜んでい  
る時や優しいお言葉をかけ  
て下さった時などは、ここ  
に奉職して良かったと心か  
らうれしく思います。「もう  
一度鶺鴒戸神宮に行ってみ  
たい」と思われるように、失  
礼のない応対をしていき  
たいと思います。あつという  
間に3ヶ月が過ぎていきま  
したが、社会人という自覚  
をもち、自分の行動に責任  
がもてるように、初心を忘  
れずに頑張っていきたいと  
思いますので、皆様よろし  
くお願いいたします。

巫子 井上 まゆ子



私が鶺鴒戸神宮に奉職し、  
三ヶ月という月日が過ぎよ  
うとしています。

最初の頃は、見る物、聞  
く事のすべてが初めてのこ  
とで、ただ驚くばかりで何  
をしても上手くいかず、不  
安と緊張で戸惑っていたこ  
としかできませんでした。

今でも、作法や笛、太鼓  
のことで頭を悩ませていま  
すが、先輩方の御指導によ  
り、日を追うごとに少しず  
つではありますが、覚える  
ことができました。毎日が  
同じ事の繰り返しのように  
はありますが、その毎日の  
中で、新しく身につけなけ  
ればならない事は山ほどあ  
ります。一つでも多くのこ  
とを身につけ、一日も早く  
自信を持って参拝者と接す  
ることができるようになり  
たいです。

当神宮は自然環境に恵ま  
れ、参拝者の中には、観光  
で来られる方も少なくあり  
ません。今は、御社殿のこ  
となどを質問されても応じ  
られず、うろたえる事がよ  
くありますが、もつと勉強  
して、参拝者への笑顔と心  
配りを大切に、一人前の巫  
女として奉仕できるように努  
めていきたいと思っていま  
す。

まだまだ迷惑を掛けてば  
かりの私であります。鶺鴒  
戸神宮の職員として恥じな  
いよう、精一杯頑張ります  
ので、御指導の程、よろし  
くお願い致します。

責任役員

川越國雄氏

表彰される



五月二十四日、明治神宮  
参集殿に於いて、責任役員  
川越國雄氏が功労顕著な者  
として神社本庁より表彰さ  
れた。

これは永年の功績が認めら  
れたものであり、当宮とし  
ても大変光栄な事である。

いさみ太鼓奉納

五月五日のこどもの日、  
揃いの鉢巻、法被姿の地元  
の子供たち五十名が、鶺鴒  
の大神様と祖先の恩とに感  
謝すると共に、健やかな成  
長を祈り御本殿、儀式殿前  
広場に於いて勇壮な「いさ



み大鼓」を奉納した。  
このいさみ太鼓は、昭和  
天皇御在位五十年を記念し  
て創作されたものであり、  
当神宮下の磯に打ち寄せ砕  
け散る荒波の様子を太鼓、  
笛、鈴等で表現している。  
この日は、曇り空であり雨  
の心配もあったが、子供た  
ちの威勢のよい姿にその心  
配もなくなったようであつ  
た。また、G・W期間中と  
もあつて参拝者も多く、元  
気に太鼓をたたく子供たち  
をさかんにカメラに収めて  
いた。

編集後記

今回表紙の写真は、丁度  
五十年前(昭和十九年)の  
本殿手前の参道である。

参道の両側には、松の木  
が茂り荘厳な感じさえする  
が、昭和四十年代には参道  
の大掛かりな改修工事を行  
い、現在のような明るい感  
じの参道となった。

昨今参拝に訪れる方に  
は、日向灘が一望でき、素  
晴らしい景色ではあるが、  
昔のように松並木の中を詣  
でるのも、厳肅な感じがし  
て今でも松の木が「残って  
いれば」というのが、この  
写真を見る私個人の感想で  
ある。

今回の写真を第一回目と  
し、次号より連載したいと  
考える次第である。

(河野)

